

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月3日

平成30年度(2年目)

事業コード	36	事業名	商工会の具体的な取組			戦略コード	4	戦略名	機動的・能動的な商工会		
担当部名	総務部	担当課名	総務・人材育成課	担当課長名	市井 仁	施策コード	18	施策名	自ら考え行動する職場改善活動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

社会経済情勢の変化により小規模事業者の経営環境が厳しさを増す中で、事業者ニーズに対応し商工会の使命を果たすことが求められている。そのためには、商工会が業務を効率的に進めることができる職場環境を整備していかなければならない。

2. 事業のねらい

県連合会と県職協が一体となって、職場単位で自らの仕事の進め方、あり方を総点検し、職員一人ひとりが自覚をもって職場改善活動に取り組むことで、質の高い仕事につなげるとともに、仕事に対するモチベーションを高めることにつなげる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32		H33
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----	--	-----

平成29年度に全県で職場改善活動計画を策定した。各商工会で現状分析を行い、課題を抽出して取組方針を決定した。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

策定した計画(方針)に基づき、具体的な改善活動に取り組み、業務効率化に取り組んだ。

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
82	職場改善の視点	各商工会において、職場改善に向けた検討を実施した。	a	a	a	A
83	職場改善活動の計画策定	各商工会において、職場改善活動計画を策定した。	a	a	a	A
84	長時間労働の改善(現状値と削減比率)	各商工会にバラツキがみられる。全体としては、削減につながっていない。	b	c	b	B

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

取組コード	83					取組コード	84					取組コード					
指標名	職場改善活動の計画策定数					指標名	長時間労働の改善(現状値と削減比率)					指標名					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	21件	21件	21件	21件	21件	目標	△20%	△40%	△60%	△80%	△80%	目標					
実績	21件	21件				実績	9%	△3%				実績					
達成率	100%	100%				達成率	-	-				達成率					
達成度	a	a				達成度	c	c				達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 取組評価の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) **b**

〈評価の理由〉

業務の効率化をはじめ、職員の働き方改革の観点から、職場改善は必要不可欠である。効率化の観点では一定の効果はみられるが、長時間労働の改善に力を入れていく必要がある。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 取組評価の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) **b**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

商工会ごとに、業務の進め方、あり方を見直しという点においては、評価できる。今後は、より実効性のある取組につなげていく必要がある。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 取組評価の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) **b**

〈コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

一連の取組が具体的な成果として、超過勤務の削減につなげていく必要がある。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **B**

これまで着手出来ていなかった職場改善に取り組んだことについては、大きな前進である。

3. 課題

策定した職場改善活動計画を実行し、超過勤務の削減等、具体的な成果を上げていくために、実効性のある取組を行うことが課題となる。

4. 今後の対応方針(改善点)

計画を着実に実行に移すとともに、必要に応じて見直しを図るなど、実効性のある取組を行っていく。